

(5) 北九州市

国境を越えた都市間連携・交流

北九州市企画文化局国際部長 高原 義弘

1. 環境と技術のまち 北九州

北九州市は、西日本、九州の最北端に位置する人口 100 万の国際都市である。アジア諸国に近く、東京と上海を結ぶ線上の中間に位置し、古くからアジアの玄関口として発展してきた。市の面積は、約 490 平方キロメートル、都心部にはきれいな川が流れ、美しい海岸線をもつ海と豊富なみどりに囲まれた「世界の環境首都」である。

2. アジアの技術首都 北九州

本市は、1901 年の官営八幡製鐵所の操業を契機に鉄鋼、化学、金属、窯業などの素材型産業が集積し、近代日本の発展を支えてきた。100 年を超える「モノづくり」の歴史の中で受け継がれてきた技術や人材などの大きな財産がある。

市内には、日本経済を牽引してきた「新日本製鐵八幡製鐵所」、水まわり住宅設備機器で有名な「TOTO 株式会社」、産業用ロボットで世界最先端を走る「株式会社安川電機」、近郊には、日産・トヨタ・ダイハツなど大手自動車メーカーの新鋭工場が立地している。

北九州空港や響灘大水深港湾などの交通・物流基盤や北九州学術研究都市など知的基盤が充実しており、環境関連・半導体関連・自動車関連の企業集積や市内企業の成長分野への進出など「新しいモノづくりの街」へさらに飛躍を続けている。

3. 世界の環境首都 北九州

1960 年代、日本が急速な経済成長を遂げる中で、北九州市は日本四大工業地帯の一つとして発展してきた。一方で、大気汚染、水質汚染といった深刻な環境汚染が進行し、工場では七色の煙が上がり、船のスクリューがヘドロで溶けてしまうほどだった。

しかし、市民、企業、行政の一体となった取り組みにより、「灰色のまち」が「みどりのまち」によみがえった。

1980 年代から、公害克服に取り組んだ経験、培った技術、ノウハウを活用し、開発途上国の環境改善に貢献している。

現在は、「あらゆる廃棄物を他の産業分野の原料として活用し、可能な限り廃棄物をゼロに近づける<ゼロ・エミッション>」資源循環型社会を目指した北九州エコタウン事業を推進している。エコタウン地区では、家電・自動車・ペットボトルなどのリサイクル事業の展開、企業や大学等と連携して技術研究開発を行う施設の集積が行われ、新たな環境関連産業の創出が期待されている。

また、温室効果ガスの大幅な削減など高い目標を掲げて先駆的な取り組みにチャレンジする国の「環境モデル都市」に選定され、アジア低炭素化センターを開設するなど低炭素社会実現に向けて努力をしている。

4. 北九州市の姉妹友好都市—中国・大連市との交流

中国・大連市とは、1979 年に友好都市提携を結び、昨年 30 周年を迎えた。大連市にとっては

北九州市が初めての友好都市であり、経済、文化、スポーツ等、さまざまな分野で交流活動が続けている。

30周年記念の昨年5月には、大連市に北九州の加工食品・工業製品を展示し、商談するためのスペースである「大連チャレンジショップ」を開設した。北九州市の企業にとっては、廉価なコストで市場調査ができること、また、独特の商習慣を持つ中国において現地スタッフが代わりに営業活動を展開することなどのメリットがある。実際に、このチャレンジショップを活用して中国進出を果たした中小企業も出てきている。

5. 北九州市の姉妹友好都市—韓国・仁川広域市との交流

韓国・仁川広域市とは、1988年に姉妹都市提携を結んだ。仁川広域市は、ソウルに隣接する都市で、重工業の発達した港湾都市である。仁川広域市政府と1996年より職員相互派遣研修を実施し、現在までに8人受入、12人を派遣した。消防分野では、1997年から仁川広域市の職員を受け入れ、本市の優れた消防技術の移転を行ってきた。2007年には「消防防災友好交流締結協定」を締結し、さらに協力関係を強化した。2009年より、北九州空港から仁川空港への直行便が就航している。

6. 北九州市の姉妹友好都市—米国との交流

米国とは2都市と姉妹都市提携を結んでいる。これは、北九州市が1963年に世界の自治体史上初となる五市対等合併を行う前の、1959年に、旧小倉市とワシントン州タコマ市、旧門司市とバージニア州ノーフォーク市が姉妹都市提携を結び、合併後も引き続き交流を続けているためである。

米国・タコマ市とは、姉妹大学の締結、姉妹港の締結、ホームステイによる青少年交流など、経済、文化、教育の面にわたって幅広い交流を続けている。1988年から13回に亘り、親善高校野球大会を開催してきた。米国・ノーフォーク市とは、タコマ市と同様、幅広い交流を続けている。1994年から4回に亘り、ノーフォーク市からの青少年によるミュージカル公演を開催してきた。

7. 東アジア経済交流推進機構

2004年11月に日・中・韓の10都市の市長及び経済界の代表が参加する「東アジア経済交流推進機構」を発足した。機構では、大局的観点から取り組むべき活動として次の5つの重点課題を取り上げている。

- ① 地域限定版「東アジアFTA創設」の推進
- ② 環黄海観光ブランド戦略の展開
- ③ 環黄海環境モデル地域の創出
- ④ 技術交流・人材育成プラットフォームの形成
- ⑤ ニュービジネス創出システムの構築

メンバー都市は、中国の4都市（大連市、青島市、天津市、烟台市）、韓国の3都市（釜山広域市、仁川広域市、蔚山広域市）、日本の3都市（福岡市、北九州市、下関市）で構成されている。市長と商工会議所会頭が出席する総会は2年に1回開催される。

8. 東アジア経済交流推進機構の4部会と活動実績

機構では、経済活動を推進するため、実践的機能を持つ部会として、「ものづくり部会」「環境部会」「ロジスティクス部会」「観光部会」の4部会を設置した。各部会では、民間企業の参画を

促し、実利的な成果を目指している。

(1) ものづくり部会

ウェブサイトの開設などのビジネスインフラの整備とともに、会員都市相互で商談会の開催や見本市への出展など、各種のビジネスマッチングをおこなっている。

(2) 環境部会

世界環境デーの前後の期間、会員全都市一斉に市民参加の海岸清掃活動「10 都市海岸クリーンアップ事業」を行っている。

(3) ロジスティクス部会

10 都市全てが港湾施設を有している。それぞれの港の利用促進として、港湾使用料などを相互で減免する優遇制度を導入している。

(4) 観光部会

環黄海域内外からの観光客を集客するため、観光案内情報ネットワークの構築、共同観光PRの展開などに努めている。

9. 新規共同事業「環黄海 ACTION」

「環黄海 ACTION」は、10 都市間における経済交流を一層加速させるため、貿易と投資を中心とするビジネス環境を改善していく共同事業で、地方レベルでは初の試みとなる。

現在、各都市の商工会議所を通じて、企業に対するアンケート調査をおこない、ビジネス上の問題点・要望点などを調査しているところである。今後は、該当の会員都市が全ての問題点・要望点について個別のアクションプランを策定し、今年 11 月に開催される機構総会において、アクションプラン実行に関する覚書にサインをおこない、各市長の公約の下でそのプランを実行する。

この取り組みを通じて、最終的に各会員都市が当該国においてビジネス上最も魅力的な地域になることを目指す。

10. 新しいアジアネットワークの開拓—ベトナム・ハイフォン市

東アジアとの交流のほかに、新しいネットワークの開拓を行っている。近年、急速な経済発展を遂げているベトナムが注目を集めており、北九州市の中小企業においても、ベトナムに対する関心が高まっている。

港湾都市ハイフォン市は、ベトナムにおいて、中国など東アジアに向けたゲートウェイ機能を担っており、また中国・華南経済圏においては、ベトナムに経済進出を行う上での物流・交流拠点と位置付けられる。

このような特徴や、製造業を中心とするハイフォン市の経済構造は、北九州市と大変似ているところがあり、環境、経済、物流など、多分野をまたぐ総合的な交流の効果が大変期待できる都市である。

以上のような機運の高まりと都市特性などから、2009 年 4 月、北九州市はベトナム・ハイフォン市と協定締結を行った。

11. ハイフォン市との友好・協力協定

ハイフォン市との協定はまずは 5 年である。5 年後に形態を見直す予定である。交流・協力事業は次のとおりである。

(1) 人材育成分野

2009 年にハイフォン市役所の職員を研修生として 1 名受け入れた（専門は都市計画）。2010 年も同じく 1 名受け入れている（専門は農業）。

(2) 港湾分野

ハイフォン港からは石炭を輸入している。輸出品はコンテナで自動車部品や雑貨等である。今後日本企業の進出による貨物量の増大が期待される。

(3) 経済分野

2009年8月に北九州ベトナム協会が発足した。今後の課題は、ハイフォン市の裾野産業育成のための取り組みである。

(4) 水道・上下水道分野

今年度から水道局による国際協力事業が始められる。また今秋、下水道経営に関する研修生受入れも予定されている。

(5) 都市計画分野

ベトナムでは今後インフラ整備が急ピッチで進められる。国際協力と同時に、本市企業のビジネスチャンスの創出が期待される。北九州市は、ハイフォン市との交流・協力事業を通じて、ウィン・ウインの関係構築を目指している。

12. 新しいネットワークの開拓ーロシア・チェリャビンスク市

ロシアは、BRICsの中でも唯一の先進国で、ここ数年高い経済成長を続けている。ロシアの中でも、チェリャビンスク州は、

- ① 鉄鋼を中心とした重厚長大産業が都市経済を牽引
- ② 旧国営企業時代の工場における設備の老朽化、環境汚染など

本市と歴史が似ている。

そのような中、本市では、市内企業に蓄積された鉄鋼・環境関連の技術やノウハウを活かし、2005年からチェリャビンスク州との経済交流を進めてきた。

1つは「鉄鋼」をベースにした経済交流である。これまでに、製鋼スラグ（鋼を作る際に発生する副産物（鉄分を含む残りかす））の処理に係る技術移転契約が締結された。計測機器の納入もなされている。また、設備輸出や技術移転などに関する複数の個別案件が現在進展中である。

1つは「環境」をベースにした経済交流である。本市環境局がチェリャビンスク市における廃棄物処理に関するランドデザインの策定に協力し、ごみ処理やリサイクルなど、本市企業の環境ビジネス交流への展開が期待されている。

このように、北九州市の地域企業に蓄積された鉄鋼技術や環境技術が、ロシアにおいて高い評価を受け、国際的なビジネスモデルとなりつつある。

13. チェリャビンスク市と経済協力協定締結

これまでのチェリャビンスク州との鉄鋼・環境分野における経済交流を推進し、市内企業による設備輸出や技術移転などの成果をあげてきた。チェリャビンスク州との協議の結果、都市の規模が同じで、産業構造が似ている両市の経済交流の活発化を継続的に進めることが重要と考え、2010年6月、5年間の「経済協力に関する協定」を締結した。今後、ロシアにおける北九州市の知名度向上とともに、ビジネス展開の円滑化を図る。

14. 海外ネットワーク機能の強化

北九州市は、海外に本市事務所を設置することで、さらにネットワーク機能を強化している。設置しているのは、友好都市である大連市と中国経済の中心、上海市である。これら事務所では、地域企業のPR・取引先の紹介、地域企業が中国へ進出する際のサポートなど政府機関・企業とのネットワーク拡大を図りながら、企業の皆様のビジネス支援に努めている。



Kitakyushu's Cross-boundary Intercity Cooperation and Exchange



CITY OF KITAKYUSHU

Environment and Technology City: Kitakyushu

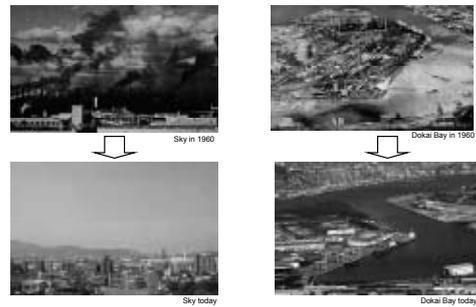


Technology Capital of Asia



Kitakyushu has a magnificent heritage of technologies and human resources that have been acquired over the city's history as a manufacturing city, one which has lasted over one hundred years since the founding of the government-owned Yawata Steel Works in 1901.

A World Capital of Sustainable Development (1)

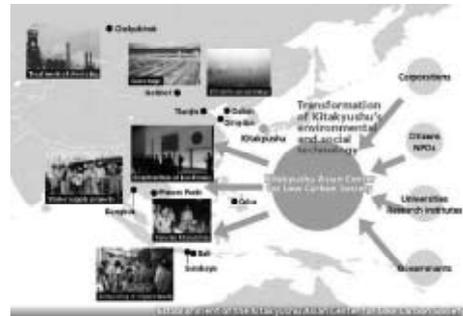


In the 1960s, Japan underwent rapid economic growth, during which Kitakyushu developed into one of the country's four largest industrial zones. However, the air and water became very polluted. Despite this situation, the residents, businesses and the local government miraculously united in the task to overcome pollution. The city turned from a "Grey City" to a "Green City."

A World Capital of Sustainable Development (2)



A World Capital of Sustainable Development (3)



Kitakyushu's Sister/Friendship Cities

Exchange with Dalian, China

Became friendship cities in May 1979 (30th anniversary of ties in 2009)

OK Kitakyushu Business Promotion Office in Dalian

Established in July 1991 Director (dispatched from city), four staff

Establishment of "Dalian Challenge Shop" as space to conduct business meetings and exhibit processed foods and products from Kitakyushu (May 2009)

Dalian Challenge Shop

1. Reduction of initial investment
Low-cost market research (from 7,000 yen/booth per month)
2. Local sales representatives promote sales in place of exhibitors
With their understanding of local business practices, local representatives develop business activities in place of exhibitors.
3. Potential for retail
Potential to identify consumer needs through retail for food and miscellaneous products, other



30th Anniversary of Friendship City Ties (2009)

1. Kitakyushu delegation visits Dalian (May)



2. Reciprocal visit by local delegations from both cities via charter flights (September-October)

- Kitakyushu - Dalian: about 118 people
 - Dalian - Kitakyushu: about 180 people
3. Dalian delegation visits Kitakyushu (February)
- ① Hold signing ceremony for friendship and exchange between the Lyuhun Museum and the Kitakyushu Museum of Natural History & Human History
 - ② Naming ceremony and relief design dedication for "Dalian Street"

Kitakyushu's Sister/Friendship Cities

Exchange with Metro Incheon, Korea

Became sister cities in December 1988 (celebrated 20th anniversary in 2008)

Reciprocal dispatch of city staff from metro Incheon and Kitakyushu city

Since 1996, Kitakyushu has hosted 8 staff from metro Incheon and has dispatched 12 staff

Exhibitions at the Global Fair & Festival 2009, Incheon, Korea

2004: MoU on distribution and exchange as "logistical partner ports"

2007: Agreement signed on cooperation in firefighting and disasters

2009: Kitakyushu-Incheon flight service



About Metro Incheon

Incheon is aiming to become a focal city for the 21st century East Asian economy by strengthening the functions of its world-class international port in customer service and as a key area for Northeast Asia, as well as an economic free zone with its origins in the Republic of Korea, setting its sights on becoming a cutting-edge city featuring air and sea transportation, a logistics complex, an international business center, financial services, residences, schools and hospitals, and shopping and entertainment centers.

To achieve these targets, Incheon organized the Global Fair & Festival 2009 Incheon, Korea, and will host the Asian Games in 2014, in order to better publicize the city to the world.

Kitakyushu's Sister/Friendship Cities

Exchange with U.S.



Tacoma Became sister city in 1959

◎ Youth & sports exchange

Visits by youth home stay groups, reciprocal visits by HS baseball teams from Kitakyushu and Tacoma



◎ Sister schools (Kyushu Kyoritsu University, Iseigaoka Elem. School, etc.)
◎ School exchanges with Kitakyushu City HS, Meiji Gakuen Senior HS)

Norfolk Became sister city in 1959

◎ U.S.-Japan educational symposium

◎ Sister schools (Univ. of Kitakyushu and Numa Junior HS, etc.)

◎ Youth cultural exchanges (musical, etc.)

2009 50th anniversary of sister city ties

Reciprocal visits by mayors of both cities, youth sports exchanges, cultural exchanges, other



8

The Organization for the East Asia Economic Development

The Organization for the East Asia Economic Development

Established 2004

Members China: Dalian, Qingdao, Tianjin, Yantai

Japan: Fukuoka, Kitakyushu, Shimonoseki

Korea: Busan, Incheon, Ulsan

04 Panels Manufacturing, Environment, Distribution, Sightseeing

Five Priority Issues in Kitakyushu's Activities

- 1 Promotion of the creation of a regional East Asia FTA
- 2 Development of strategies for a Pan-Yellow Sea sightseeing brand
- 3 Creation of a Pan-Yellow Sea environmental model region
- 4 Formation of a platform for technology exchange and development of human resources
- 5 Development of a system to create new business



Total Population of ten cities 43260 thousand (2008)
Total GDP in ten cities About 53 trillion yen(2008)

9

Four Panels and Achievements

Panels	Main Achievements
Manufacturing Panel	<ul style="list-style-type: none"> Business meetings, business matching opportunities at trade fairs Business matching support utilizing IT
Environment Panel	<ul style="list-style-type: none"> Coastal clean-up activity with the participation of 10 cities International environmental cooperation with Qingdao, Tianjin, and Dalian
Distribution Panel	<ul style="list-style-type: none"> Introduction of reciprocal systems, such as port fee reductions, other Implementation of joint port sales
Sightseeing Panel	<ul style="list-style-type: none"> Creation of joint pamphlets, DVDs, characters for ten member cities Sightseeing websites, Promotion of school excursions



Ceremony to sign agreement on logistics partnership (Kitakyushu and Tianjin)



Environmental agreement with Qingdao in 2007



Environmental agreement with Tianjin in 2008

"Pan Yellow Sea ACTION" - Unprecedented Innovative Project -

Simple Concept

Chambers of Commerce of 10 OEAED Cities identify problems
10 City Government Offices compile solutions for all of the problems
Mayors officially and openly promise to complete actions in 2 years.

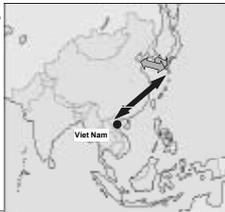
Chambers of Commerce research problems faced by local businesses in 10 cities



Development of New Asian Networks (ASEAN)

Exchange with ASEAN countries

Kitakyushu has focused on carrying out exchange with East Asia (Korea, China)
To identify new areas for exchange, Kitakyushu has attached importance to the ASEAN region, an area of remarkable growth and new developments



Particular focus on Viet Nam

Current state of Viet Nam

Economic growth/Economic growth rate: 6.23% (2008 Top News)
(Rate for same period last year was 8.5%)

Population: About 86 million (2008) (3rd largest population in ASEAN) ...

Attractive also as a market

High expectations as an "East-West Economic Corridor," "Hanoi-Guangzhou Route," and "Secondary East-West Economic Corridor," connecting industrial and commercial cities in the southern China and Indo-China regions with Viet Nam as a focal point.

12

Agreement for Friendship and Cooperation with Haiphong

Concluded the agreement (April 2009)

Venue: Haiphong People's Committee Gov't Office

Signatories

Trinh Quang Su (Chairman, Haiphong People's Committee)

Kenji Kitahashi (Mayor, City of Kitakyushu)



5-Year Exchange & Cooperation Project

[Development of human resources]

Hosting trainees, other
Strategic development of human resources linking both cities

[Ports]

Increase in cargo volume expected in line with Japanese businesses locating to industrial zones in northern Viet Nam

[Economy]

Establishment of Kitakyushu-Viet Nam Association (August 2009)
Activities in the field of human resource development

[Environment]

Hosting trainees, study groups, other
[Water supply and sewage]
Technical cooperation for leakage prevention, other from 2010

[Urban planning]

Technical cooperation for infrastructure improvement, other
Creation of business opportunities for Kitakyushu companies

[Citizens/cultural exchange]

Reciprocal visits, other

(2014→Review planned)

13

Development of New Networks

Russia

Exchange with Chelyabinsk

Current situation in Russia

- Vast land
- Rich, natural resources
- High rate of economic growth



Chelyabinsk

- Russia's largest focal area for iron and steel industries with rich supplies of underground resources, such as iron ore, other
- Many businesses formerly operated as state-run factories—obsolete equipment, low productivity, negative environmental impacts
- Make use of technology and know-how of Kitakyushu's steel and environmental-related industries

Promotion of business matching for steel manufacturing equipment and recycling technologies

Since the summer of 2005, Kitakyushu has continuously conducted business missions to Chelyabinsk in cooperation with national organizations promoting business with Russia, and KITA, which is well-versed in the practices of local businesses and environmental know-how.

Shared history of suffering from environmental problems, such as pollution

Using this opportunity for exchange with steel-related industries, the Chelyabinsk government instituted environmental policies based on the model of Kitakyushu
Transfer of know-how from Kitakyushu's government and businesses, creation of business opportunities for local companies

14

Agreement for Economic Cooperation with Chelyabinsk

Russia

Based on economic exchange with Chelyabinsk carried out to date, Kitakyushu concluded a five-year Agreement for Economic Cooperation in June 2010 to promote the activation of economic exchange between the two cities, which have similar scales and comparable industrial structures.



15

Overseas Offices (Dalian & Shanghai)

Kitakyushu Business Promotion Office in Dalian

Established in July 1991
 [Staff]
 Director (Dispatched by city)
 Vice Director (Dispatched by Fukuoka Bank)
 Local staff: 2



Kitakyushu Business Promotion Office in Shanghai

Established in July 2005
 [Staff]
 Director (Dispatched by city)
 Vice Director (Dispatched by Yamaguchi Bank)
 Local staff: 2



Main Activities

- Attracting tourists from China
- Support for attracting sea routes and cargo collection
- Support for local business expansion into markets
- Creation of human networks with businesses, other
- Support for missions and business meetings
- Information gathering about China

Other Activities

- Establishment of a Kitakyushu supporter's group, "Chu-cha Association," in Shanghai
- PR activities using free papers and TV programs in both cities
- Creation of website to promote Japan
- Overseas internship program for city staff, other

16



(6) 熊本市

「地域資源の活用とブランディングによる新しいまちづくり」 ～豊かな自然環境、歴史・文化と都市戦略～

熊本市企画情報部長 坂本 純

1. 熊本市のあらまし

熊本市は日本列島の南に位置する九州島のほぼ中央に位置しており、市域面積は約 390 k m²、都市人口約 73 万人、都市圏人口約 100 万人を擁している。

また、熊本市の特色としては、第一に、熊本城をはじめとした歴史遺産や伝統文化を受け継ぎ、官公庁や高等教育機関、医療機関が集積する街であること、第二に、市民の生活用水 100%を賄う清らかな地下水や豊かな緑などの自然環境に恵まれていること、が挙げられる。物価も安く、犯罪発生率も低く、総じて、暮らしやすい都市である。

熊本市周辺を見てみると、国立公園が2つある。一つは阿蘇国立公園である。阿蘇山は、いまも活火山であり、世界有数の長大な外輪山に囲まれた風光明媚な風景を有し、年間を通して多くの観光客が訪れている。周辺には日本でも人気のある温泉や広大なゴルフ場など多くのレジャー施設がある。

もう一つは天草国立公園である。120 の島々からなり、マリンスポーツや温泉を楽しめるリゾート地であるとともに、17 世紀初頭に多くのキリスト教徒が迫害を受けた島としても知られている。

2. 社会環境の変化と取り組みの方向

昨今、日本においては、人口減少社会の到来などを背景に地域社会の活力の低下が問題になっている。

このような中、本市においては、2011 年春、九州新幹線が全線開業し、2012 年春に日本の都市制度の中で最も権限と財源が充実している政令指定都市への移行を予定している。

すなわち、本市にとっては、ここ数年が都市の魅力発信や国内外の諸都市との交流・連携を深める好機と言える。

そこで、本市が有する地下水や緑、名所旧跡などの観光資源、さらには市民の気質や日常の暮らしに息づく文化などの魅力と個性ある地域資源を活用し、国内外から観光地として、ビジネス相手として、あるいは生活の場所として、「選ばれる都市」を目指すため、都市ブランドの確立と発信を進めていくこととした。

そのために、2009 年、「熊本シティブランド戦略プラン」を策定した。これに基づき、現在、「くまもとのシンボル『熊本城』」や「阿蘇の恵み『世界の地下水都市』」、「豊かな自然が育む食の王国」、「情熱・感性・深きこだわり『くまもと人』」などについて、ストーリーを仕立てるとともに、ブランドイメージを創る情報の受け手に対して、連続的に新鮮な情報提供を行う取り組みを進めているところである。

3. 豊かな自然環境、歴史・文化等を生かした新たな都市戦略の具体的な展開

3.1 熊本城の復元整備

本市は 400 年前に市中心部に築造された、広さ約 100 万 m²の熊本城の城下町として発展してき

た。ただ、熊本城は 1878 年の内戦で大半が焼失したので、熊本市は復元事業に力をいれ、特に、築城 400 周年を 10 年後に控えた 1998 年、総事業費 89 億円、期間 10 年の熊本城復元事業を実施した。その中でも、行政の場・生活空間として利用されていた「本丸御殿」は、総工費 54 億円をかけて見事に復元された。この復元事業の結果、2008 年には 200 万人を超える人々が訪れ、日本の城郭としては入場者数が全国一となった。

3.2 「一口城主」制度

この熊本城の復元整備にあたっての、「一口城主」という寄付金制度である。これまで、延べ 5 万 4 千人を超える皆様から、総額で 15 億円を超える支援をいただいた。

私どもは熊本城を熊本市民・県民のみならず世界共有の財産として、ガウディのサグラダ・ファミリアが長い年月をかけて完成に向かってるように、50 年、100 年の長期的視点を持って、往時の熊本城そのままの姿に復元していきたいと考えている。

つまり、この復元事業で、熊本市民とともに都市の歴史的文化的品格に磨きをかけ、「シビックプライド」を醸成していきたいと考えている

3.3 地下水

1977 年に「地下水保全条例」を制定するとともに、森林整備など様々な地下水涵養事業に周辺自治体とともに取り組んでいる。さらに、近年では、「くまもと水遺産」や「くまもと水検定」の制度開始など、地域全体で水文化の普及啓発などを行っているところである。

その結果、2008 年には、本市は「日本水大賞グランプリ」を受賞し、現在、名実ともに日本を代表する水の都として、本市の清らかで豊富な地下水及び水文化を都市の魅力の一つとして発信しているところである。

3.4 ブランディング

常に新しい情報を連続的に発信している。熊本市では、レストランで 10% の割引など利用特典付会員カードである「城主手形」の発行やオリジナルデザインのハンカチやバッジなど、様々なグッズの作成、良質な地下水を PR するための水のペットボトルの配布、日本語・英語・中国語・韓国語の 4 ヶ国語によるホームページを活用した情報発信などを実施中である。

3.5 マンガ・アニメを生かしたまちづくり

本市ゆかりの著名人の中には、皆さんの国でも有名なマンガ・アニメの作家が多く、例えば昨年は、市の現代美術館で、「バガボンド」「リアル」「スラムダンク」などの人気長編マンガを生み出した井上雄彦氏の「最後のマンガ展」を開催したところ、国内外から多くのファンが来館された。宮本武蔵が「五輪の書」を書いた霊巖洞など武蔵ゆかりの場所が市内にあるが、そこにも足を運ぶ人が増えた。今後、本市出身作家等のマンガ・アニメを生かしたまちづくりについても検討しているところである。

4. これからの都市づくり

このように、人口増加が見込めない社会状況にあっても、地域の持つ自然や生活環境を生かした「暮らしやすさを実感できるまち」や、国内外から「選ばれる都市」を目指すことで、交流人口を増やし、都市の活力の維持・向上につなげることを本市の都市戦略の一つとしている。

そのターゲットとしては、昨年より特に東アジア諸国を意識しており、今後、観光・学術・経済・環境等の様々な分野において、積極的にアジア各都市とのパートナーシップを築いていきたいと考えている。

先ほども述べたが、熊本市はこの数年、九州新幹線の全線開業や財源と権限がより強固になる政令指定都市への移行という飛躍のチャンスに恵まれている。これを機に、さらにシティブランドの確立と発信を図ることにより、東アジアはもとより、広く国内外から人々を引き付けるような新しい熊本を創っていきたいと考えている。

Kumamoto City

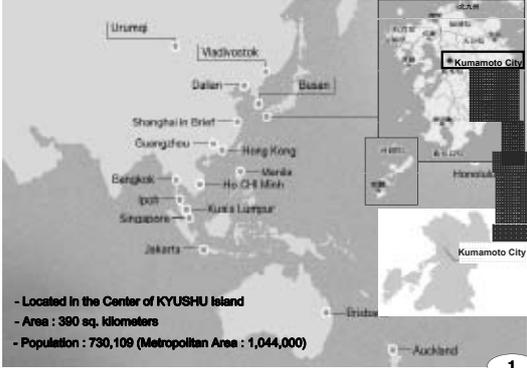
Creating City Brands and the Practical Use of Local Resources
~Abundant Natural Environment, History and Culture – City Strategy~




Chapter1 Outline



Location and Data



- Located in the Center of KYUSHU Island
- Area : 390 sq. kilometers
- Population : 730,109 (Metropolitan Area : 1,044,000)

1

Historical and Cultural Resources



Kumamoto Castle



Suizenji Park



Kosho-ken tea house

2

Universities in Kumamoto City



14 universities located in the city and suburbs

Entrepreneur cultivation seminar jointly hosted by universities and Kumamoto City

3

Hospitals in Kumamoto City



Kumamoto City Municipal Hospital



Japan Red Cross hospital

4

Abundant Natural Water



Crystal-clear, pure groundwater

All drinking water is provided by our groundwater. One can enjoy it straight from the tap!



5

Mt.Aso



Crater of Nakadake volcano, Mt. Aso



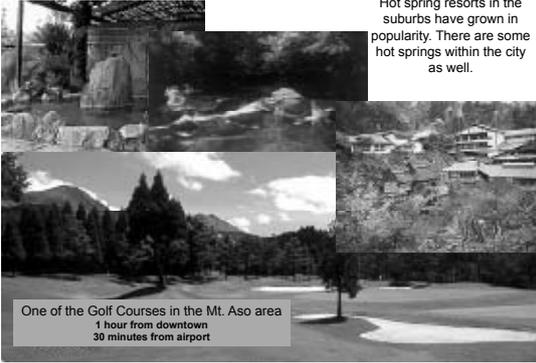
a beautiful plain of green grass



View of the outer rim of the crater shaped landform by Mt. Aso

6

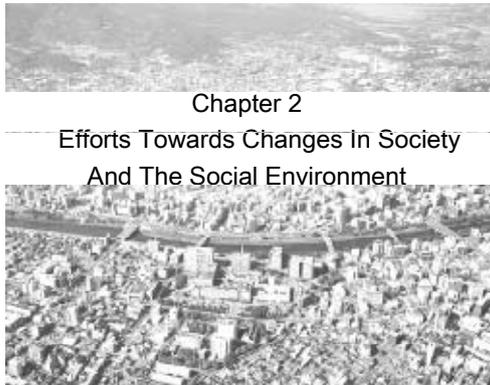
Hot Springs and Golf Courses in Mt. Aso area (7)



Hot spring resorts in the suburbs have grown in popularity. There are some hot springs within the city as well.

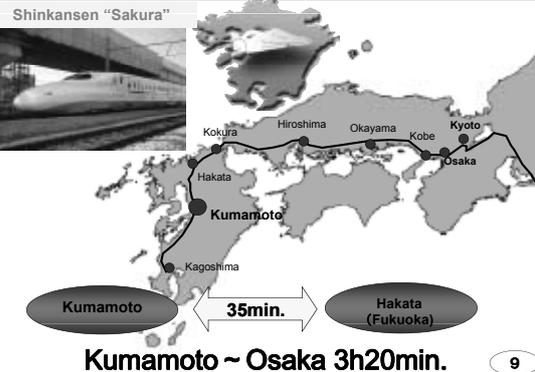
One of the Golf Courses in the Mt. Aso area
1 hour from downtown
30 minutes from airport

Amakusa Island Area (8)



Chapter 2
Efforts Towards Changes in Society
And The Social Environment

Shinkansen(Kyushu Bullet Train)



City Branding Strategic Plan

◆Catchy Phrases

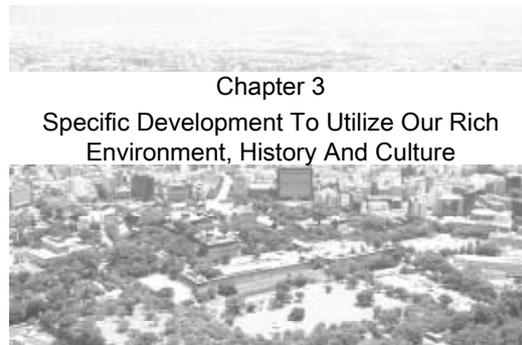
"Waku Waku Kumamoto",
A place where new surprises
and experiences await you!



◆Our Five Storyline Strategies

- ①The Story Behind the Symbol of Kumamoto, "Kumamoto Castle"
- ②The Story of Aso's Blessing, "The World's Groundwater City"
- ③The Story of the Rich Nature Bearing The Kingdom's Food
- ④The Story of the Vast Countryside and Spiritually Rich Rural City
- ⑤The Story of the Passion of "Mokkosu", the Sensitivity of "Wasamon", and the Fastidiousness of the "People of Kumamoto"

(10)



Chapter 3
Specific Development To Utilize Our Rich
Environment, History And Culture

Kumamoto Castle

"Leading Symbol of Kumamoto"



(11)

Kumamoto Castle "Restoration"



(12)

Kumamoto Castle



Shokun hall, the highest ranked room

13

Kumamoto Water Life



- Miraculous Groundwater Brought Forth By Nature and Man
- Natural Groundwater Straight From The Tap
- Winner Of The 2008 Japan Waters Prize



14

**Certifications of the Lord of Kumamoto Castle
(Castle Reconstruction Donation Member's Cards)**



15

Souvenirs



16

Manga ①



17

Manga ②



18



**Chapter 4
Continuing Our City Development**



Surrounding Cities of Interest

19

